

## ドイツ連立相手の苦悩が続く

～進むも地獄退くも地獄～

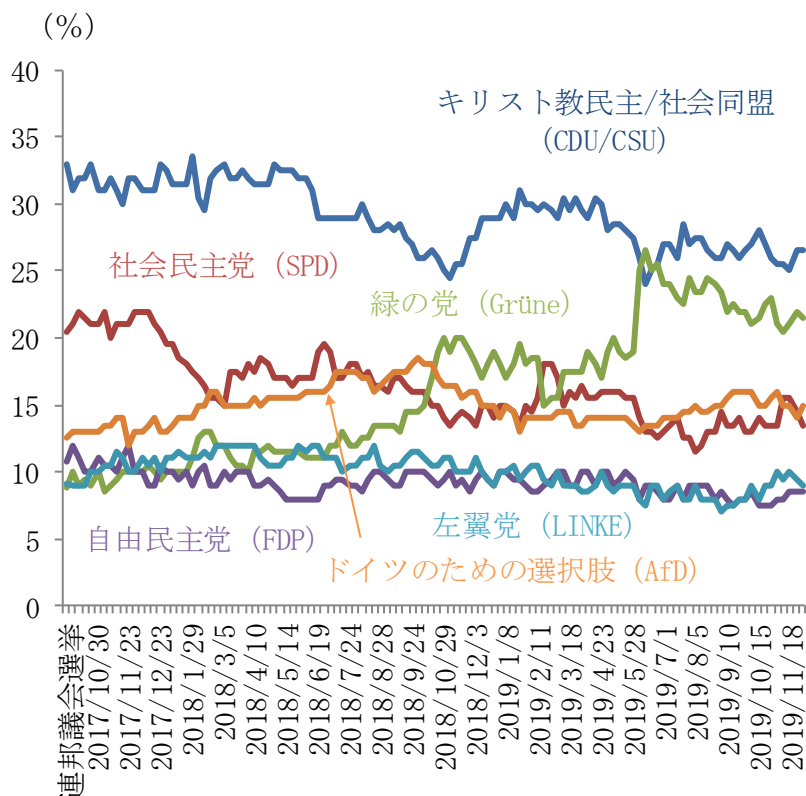
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 田中 理 (TEL:03-5221-4527)

◇ ドイツの連立パートナーSPDは6～8日の党大会で、先の党员投票で選ばれた連立継続に批判的な新党首を正式承認した。新党首は、所得分配強化や公共投資拡大など、連立合意の見直しを求める意向を示唆している。だが、連立継続を承認する投票結果を踏まえ、即時の連立解消の決断は見送った。連立を率いるCDUは連立合意の見直しに否定的で、今後も連立内の足並みの乱れや連立継続の不透明感が継続しそうだ。来年は政治イベントが少なく、2月のハンブルク州議会選挙を乗り切れば、2021年秋の連邦議会の任期満了まで政権が継続する可能性が高まろう。

ドイツの連立政権に加わる中道左派の社会民主党（SPD）は6～8日に党大会を開き、保守政党・キリスト教民主同盟（CDU）とその姉妹政党・キリスト教社会同盟（CSU）との大連立を継続することを承認するとともに、先の党员投票で選ばれたワルター・ボーヤンス元ノルトライン＝ヴェストファーレン州財務相とエスケン連邦議会議員の2名を共同党首に正式に選出した。新党首は大連立の将来に引き続き懐疑的で、連立内で右傾化した党の政策方針を再び左派転回する方針を示唆している。もともと、党大会の代表者による投票で連立継続が承認されたことを受け、すぐに連立解消に動くのではなく、CDU・CSUに対して、所得分配の強化、最低賃金の引き上げ、気候変動対策の強化、公共投資の拡大、行き過ぎた財政緊縮路線の軌道修正など、連立合意の見直しを求めていくことを示唆している。こうしたなか、連立を主導するCDU側も、クランプカレンバウアー党首兼国防相が、メルケル首相の後継候補としての足場固めに苦慮している。同氏はSPDとの連立合意の再協議に否定的な見解を示唆しており、当面は連立内の足並みの乱れや連立継続を巡る不透明感が払拭されることはなさそうだ。連立合意の見直しが不調に終わり、SPDがよいよ連立解消を決断する場合、CDUとCSUが非多数派政権を率いるか、メルケル首相が退陣し、連邦議会選挙を前倒しで行う以外になくなる（詳しくは12月2日付けレポート「[ドイツ連立継続に黄信号](#)」を参照されたい）。

連立解消を見送った今回のSPDの投票結果からも分かる通り、同党の所属議員や執行部の間では早期の解散・総選挙に否定的な見方が多い。2017年秋の連邦議会選挙で20.5%と歴史的な低得票率にとどまったSPDは、その後も環境政党・緑の党に中道左派票を奪われ、10%台前半の支持率で低迷している（図表1）。新党首の選出で党勢を回復できるかは予断を許さない。2020年は2月23日のハンブルク（自由ハンザ都市ハンブルク）州議会選挙以外に、連邦議会・州議会レベルの選挙は予定されていない。同州はSPDが長らく地盤としてきた州で、最近の州議会選挙の世論調査でも30%前後の支持率で他党をリードしている。今後も大連立継続の行方は不透明だが、来年は政治イベントが少なく（図表2）、同州議会選挙を乗り切れば、2021年秋の連邦議会任期満了まで連立政権が続くチャンスが高まる。

(図表 1) ドイツ連邦議会選挙の支持率調査



出所：INSA資料より第一生命経済研究所が作成

(図表 2) ドイツの今後の政治日程

2020年	2月23日	ハンブルク州議会選挙
2021年	春	バーデン＝ヴュルテンベルク州議会選挙 ラインラント＝プファルツ州議会選挙 ザクセン＝アンハルト州議会選挙
	秋	メクレンブルク＝フォアポンメルン州議会選挙 ベルリン州議会選挙 ドイツ連邦議会選挙

出所：第一生命経済研究所が作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

